

# 学力だけではない 「人間力」の養成

私立大学等改革総合支援事業タイプ1（選定：平成29年度）



## 広島工業大学

### 取組のポイントや補助効果

- ◆ ポートフォリオシステムの導入によるデータの一元化及び可視化
- ◆ データ共有による、教職員全体での学生支援

広島工業大学は、現在4学部12学科設置しており、建学の精神「教育は愛なり」の理念のもと、どのような学生に対しても常に寄り添いながら、その可能性を伸ばす教育に取り組んでいる。

また、教育方針では「常に神と共に歩み、社会に奉仕する」の理念を持ち、技術と人間の深い関わりを重視し、社会との連続性を意識した教育を展開している。

2016年度より、「HIT教育2016」としてポートフォリオの導入など教育改革を実践し、学力だけではなく、豊かな人間力に満ちた技術者の養成に力を入れている。

### 取組に至る背景や問題意識

問題意識として、学生の中に成績が非常に優秀だが就職活動に苦戦する学生や、社会に巣立った後、社会とのギャップを感じてしまったり力を発揮できない学生たちが多くなってきているとの懸念があった。

そのような課題を抱える一部の学生を指導するためには、学力とともに豊かな人間力に満ちた学士力が必要であると認識し、人間力を付け、自ら成長し続ける力を養成することを目指し改革を進めてきた。

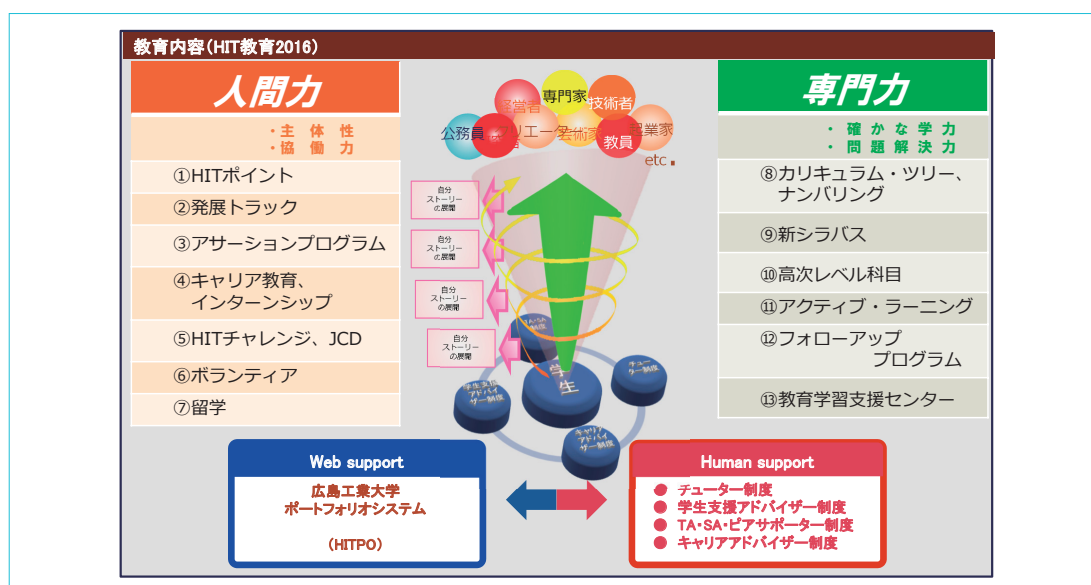


図 HIT教育2016の概要

## 取組の目標・目的

社会から強く求められている、より心豊かな日常生活を実現し、支えることができる堅実な学力と豊かな人間力に満ちた学士力を有する技術者、すなわち「社会に奉仕する人間性豊かな技術者」の育成が取り組みの目的である。

## 取組内容

HIT教育2016はさまざまなプログラムや取り組みを行うことによって、人間力と専門力(学力)が相互に関係し合いながら、学生の力を養成していく取り組みである。ポートフォリオシステムを導入するなどのウェブのサポートだけではなく、チューター制などの人間的なサポートも合わせて、教職員全員が個性ある各学生に対して指導を行っていく。具体的な取り組みの一部は以下のとおりである。

### ≡ ポートフォリオシステム (HITPO)

学生の指導には電子化したシステムが必要ということで、ポートフォリオシステム(HITPO)を独自で開発し導入した。学生が

自らのポートフォリオを作っていく他に、休補講の情報やコース管理システム、時間割の確認などの機能等を実装し一元的に管理している。学生との面談内容を記録し共有することもでき、全教職員体制で学生を見守っていく。保護者に対しても、保護者ポータルで学業成績等を迅速に提供しており、学生の出席状況も分かるため好評である。

また、学生の成長度を2種類のレーダーチャートで可視化している。それを学生にフィードバックするとともに、教員の学生指導にも活用している。

レーダーチャートの一つは人間力についてである。当大学では人間力を伸ばすことが大切であると考え、人間力向上につながる取り組みを課外教育活動等とし、その状況を計る指標にHITポイントという制度を導入した。例えば、サークルに所属したら何ポイントというような形で、いろいろな活動を分類しポイントを付与する。HITポイントの高い学生は成績優秀者が多く、一方、低い学生は成績的に問題があることが多い。活動にあまり取り組んでいない学生に対しては、チューターが指導を行っている。

もう一つのレーダーチャートは学力に関する

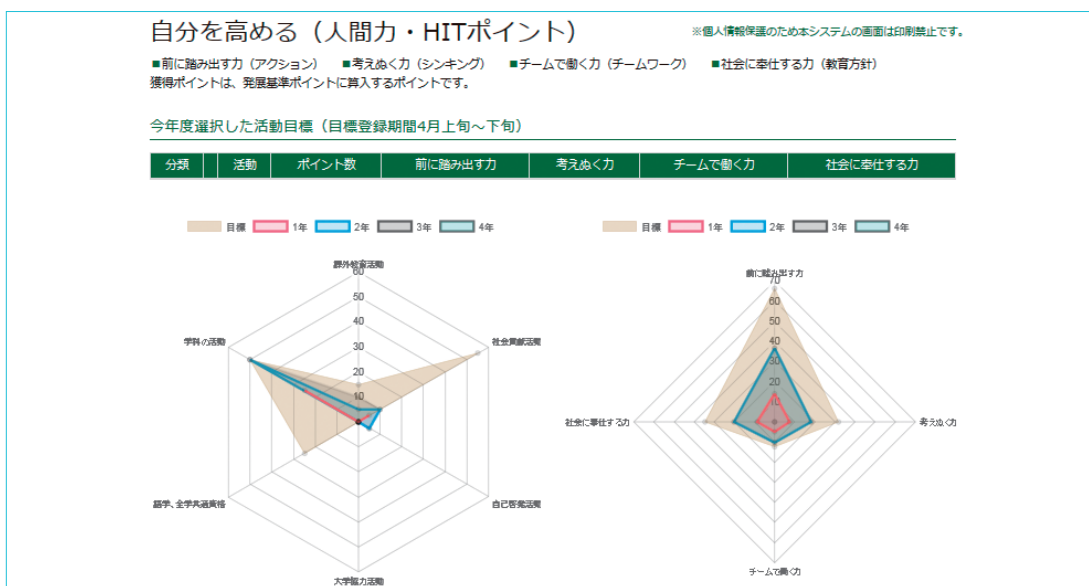


図 人間力のレーダーチャート(例)

るものである。学力に直接関係するGPA等とは別のものであり、それぞれの分野における科目の習得状況が可視化できる。また、取得した単位とディプロマ・ポリシーとの関連度もレーダーチャートで可視化を行っている。

### ≡ フォローアッププログラム

初年次の必修科目（英語、数学、物理）について、正規の開講期間内に着実に理解し単位を修得できるように支援するため、独自のフォローアッププログラムを設けている。学生が単位を落としてしまい、次の期に再受講するとなるとカリキュラムに示した順次で単位を修得できなくなるため、その対策として始まった。各授業の最初にラーニングチェックテストを実施し、前回の授業の理解度を測る。合格できなかった場合には夕方に実施するフォローアップ講座に出席させる。講座には、教員と上級生のピアサポーターがおり学習をサポートする。

さらに、講座の時間内に理解できない学生については、教育学習支援センターの教員が対応する。教育学習支援センターとは、多様な学生に対応するため、特に学力に不安がある学生を対象として高校教育の内容の補填や大学での基礎教育のサポートを行う部署である。高等学校を定年退職した教員を専任講師として雇い、センターに常時待機させることで、いつでも質問ができる環境を提供している。センターの教員は各授業の担当教員と密に連携しあいながら、講義内容を確認し学生一人ひとりの学習相談に丁寧な指導を行っている。

### ≡ 学生支援アドバイザー

学習や就職、学生生活などに諸課題を抱える学生にアドバイスすることが主業務の学生支援アドバイザーとして、授業を担当していない教員を各学科一人ずつ配置している。チューターの学生指導を支援しつつ、フォ

ローアッププログラムなどの他の教職員とも連携しながら学生の相談に応じている。また、定期的に「学生アドバイザー連絡会」を開催し、活動状況の報告や情報収集を行っている。

### ≡ 授業アンケートの全学実施

HITPOの運用開始に伴い、2017年度から対象科目を全授業科目に広げてウェブによる授業アンケートを開始した。アンケートには、学力の質保証を目的とした授業運営がなされているかをチェックをする項目を加えた。アンケートの結果が翌年度の授業改善に反映されるように、シラバスの中には前年度からの授業改善点を必ず記載している。なお、各授業アンケートの結果については、ウェブのシラバスを通して学生にフィードバックしている。

### 実施体制

HIT教育2016を検討するに当たって、教育課程運用に関する特別委員会を立ち上げ、その中に四つの部会を設置した。副学長、学部長、教員管理職、事務管理職が教職協働で約130件の課題をリストアップし、特別委員会で最終的に検討し完成させた。特別委員会は2015年度末をもって解散し、2016年度から、副学長をリーダーとしてHIT教育推進会議を設置しHIT教育2016を推進している。HIT教育推進会議は毎週開催し、PDCAサイクルを回しながら、問題点の解決に取り組んでいる。2018年度は、各種制度もある程度安定してきたことから、2週間に1回の開催にしている。また、2017年度末には各学科にHIT教育2016に対する中間アンケートを行い、進捗状況や問題点等の確認をした。アンケートの結果について、速やかに改善可能なものは2018年度に対応している。大きな変革が必要な事項は、2020年度のカリキュラム改訂で反映することを検討している。

HIT教育2016について、広く意見を求めることを目的として、毎年、学外者であるアドバイザーボード（学外教育関係者、企業、同窓生等）に教職員の前で議論をしてもらい意見や評価を受けている。

## 取組後の変化

HIT教育2016は、それを体験した2016年度以降の入学生が卒業して社会で活躍することが目的のため、最終的な効果は今後検証をしていくことになる。表れてきた変化としては、退学率がHIT教育2016以前の学生と比較すると1.6ポイント改善している。特にフォローアッププログラム等の効果が表れていると考えており、さらに分析を続けている。また、HITポイントの導入により1年生のクラブの加入率が60%近くに増加している。

学生支援に対する教職員の意識も大きく変わり改善した。以前は学生との対応記録を各教職員で持っており、記録媒体も紙であったがHITPOを導入することで、教職員が一人の学生を多方面のデータから見る事が可能になり、指導も手厚くなった。また、HIT教育推進会議や各種の部会等は教員と職員で構成しており、教職協働の風土が醸成された。

入試説明会、教育懇談会、企業懇談会などでは、HIT教育2016の周知を図っている。HIT教育2016は、高校教員、保護者、企業等から大きな期待を寄せられており、社会のニーズを反映できていると考えている。また、他大学からも視察等の希望がある。

2018年度は、学生に対して満足度調査を行っており、今後はその調査分析も行う。

## 成功のポイントや苦労した点

まだ完成年度は迎えておらず卒業生を出していないため、成功かどうかは簡単には言

えないが、フォローアッププログラムやHITポイント、HITPOなどの新たな取り組みが、学生や教員から高い評価を得ており、成功につながっていくのではないかと考えている。

HIT教育2016は、複数の施策から構成される教育プログラムであるため、全構成員が一度にこのプログラムのすべてを理解することは非常に難しかった。そのため運用開始前は6回の説明会を実施した。また、運用開始後は年度末に次年度に向けた内容等の説明会を開催しており、教授会やFD等の全教員が集まる機会を利用し取り組みを周知するなど、制度の着実な実施ができるように学長のガバナンスをきかせながら丁寧な説明を心掛けている。

## 今後の課題・展望

中間アンケートの結果から、大学での学びと社会との連続性にさらに力を入れるだけでなく、学生同士が持続的に学び合う力を養成することにも焦点を当てて、全体像を作り2020年度の新カリキュラムにも対応していきたい。

私立大学等改革総合支援事業は、大学に必要とされる課題が提示されており、今後の改革のための検討材料として使用している。当大学では文部科学省の求められている質保証をよく考えて独自で取り組み始めたものが多く、私立大学等改革総合支援事業で求められる取り組みはほぼ実施できている。今後も人間力の向上を目指し目的を達成するための取り組みを推進しつつ、あわせて補助金の内容を確認しながら、実施している内容を検討し対応していきたいと考えている。